
木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流会実行委員会

報告書

目次

- ①人材発掘・育成事業
- ②地域共創シンポジウムにおける成果報告
- ③人材育成のためのカリキュラム作成

人材発掘・育成事業

都心水上交通のための人材発掘・育成に関する 検討業務アンケート調査集計結果

1. 実施目的

脱炭素化の推進、スローライフの広まりとともに水上交通が見直されつつある、「地域公共交通」としての「堀川舟運」の可能性を探るため、2023年12月10日(日)に、学生が堀川舟運のガイド役を試み、人材発掘・育成の可能性を探る社会実験を「名古屋工業大学都市基盤計画分野研究室」が協力して「木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流実行委員会」が行った。このレポートは、この社会実験に参加いただいた乗客・乗員の皆さんに回答いただいた「都心水上交通のための人材育成に関する調査」に関するアンケート調査の結果をまとめたものである。

2. 実施期間

令和5年12月10日(日)

3. 調査方法

木曾三川と堀川 上下流をつなぐ交流会の参加者が堀川の宮の渡し～納屋橋の区間で乗船した後にアンケート用紙を配布し、その場で回答していただいた。
また、ガイドを担当した学生に数日後にアンケート調査を行った。

4. 回答者

参加者21名(上流+下流)
ガイド3名(直海響, 稲垣真生, 中平亜都夢)

5. 参加者アンケートの内容

○アンケートの設問と選択肢

問1)あなたは舟運(本日乗船した形態について)が好きですか。嫌いですか。

1. 好き →付問1へ
2. どちらでもない →問2へ
3. 嫌い →付問2へ

付問1)なぜ好きですか。(複数回答可)

1. 水に親しめるから
2. ゆっくり移動できるから
3. 景色を楽しめるから
4. その他

付問2)なぜ嫌いですか。(複数回答可)

1. 揺れるから
2. 遅いから
3. 景色がつまらないから

4. その他

問2)堀川では春と秋の土日祝に客船を運航しています。どう思いますか。

1. 今後も続けていくべきと思う →付問1へ
2. どちらでもない →問3へ
3. 続けて行くのは難しいと思う →付問2へ

付問1)続けるべきと思う理由はどのようなことですか。(複数回答可)

1. 人々がもっと水辺,堀川に親しむとよいから
2. 交通手段として有効と考えられるから
3. 環境にやさしいと考えられるから
4. その他

付問2)続けるのが難しいと思う理由はどのようなことですか。(複数回答可)

1. かかる費用を料金でまかなうことができないから
2. 遅く,不便で交通手段として成立しえないから
3. 天候や潮の干満に左右され,運航が不安定になるから
4. その他

問3)本日の育成者のガイドを聞いてどのように感じましたか。(自由記述)

問4)ガイドの要請についてどのように思いますか。

1. ガイドを育てる方がいい →付問1へ
2. どちらでもない →問5へ
3. ガイドを育てるのはやめた方がいい →付問2へ

付問1)育てる方がいいと思う理由はどのようなことですか(複数回答可)

1. 参考になる情報が得られるから
2. 人間味があるから
3. 地域のためになるから
4. その他

付問2)やめた方がいいと思う理由はどのようなことですか(複数回答可)

1. うまい人に任せればよいから
2. 録音などにして機器に任せればよいから
3. 養成に労力や費用をかけるのは無駄だから
4. その他

問5)本日のガイドを聞いてガイドに何を求めますか。

設問

1. 堀川の各所に関する知識
2. 河川に関する知識
3. 名古屋に関する知識
4. 話術にたけていること
5. 話の道理がよくわかること
6. 乗客とのやりとりがうまいこと
7. 楽しませてくれること
8. 礼儀正しいこと
9. その他

選択肢

1. 強く求める
2. やや求める
3. あまり求めない

※以下,個人属性

問6)世代を教えてください

- 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

問7) 今日までに堀川を知っていましたか。

1. 初めて堀川に来た
2. 過去に堀川に来たことがある
3. 過去に堀川で船に乗ったことがある

6. 調査結果

乗船客のアンケート調査については、まず集計結果を示し、設問間のクロス分析をいくつか行い、考察の結果を示す。ガイドのアンケート調査については、設問と回答を掲載する。

回答	個人属性		舟運の印象				運航の継続				ガイドの養成				ガイド養成への要望												
	問6 世代	問7 堀川	問1 選 択 肢 1	付問1 選 択 肢 2	付問2 選 択 肢 3	その他	問2 選 択 肢 1	付問1 選 択 肢 2	付問2 選 択 肢 3	その他	問4 選 択 肢 1	付問1 選 択 肢 2	付問2 選 択 肢 3	その他	問5 設 問 1	設 問 2	設 問 3	設 問 4	設 問 5	設 問 6	設 問 7	設 問 8					
1	70	3	1	○	○	○				1	○	○		1						1	2	2	2	1	2	2	2
2	70	1	1			○				1	○	○		1	○					1	1	1	1				
3	70	3	1		○	○				1	○			1		○				2	2		3	2		2	3
4	60	3	3				○			1	○			1	○	○				2	2	1	2	2	2	2	2
5	30	1	1	○		○				1	○			1		○				2	2	3	3	1	1	1	2
6	40	2	1	○		○				1	○			1	○	○	○			1	2	2	2	1	1	1	2
7	40	1	1			○				1	○			1	○	○				1	1	1	1	1	1	1	2
8	70	1	1	○						1	○			1		○	○			1	1	1	1	1	1	1	1
9	60	2	1		○					1	○	○	○	1	○	○				2	1	2	1	2	1	2	2
10	70	1	1			○				1	○			1	○	○	○			1	1	1	2	2	2	1	1
11	60	2	1	○	○	○				1	○			1	○	○				1	1	1	1	1	1	1	1
12	40	1	1	○						1	○			1	○	○				1	2	2	3	2	3	3	2
13	50	1	1	○		○				1	○			1	○	○	○			1	1	2	2	2	1	1	2
14	60	1	2				○			2				1		○				1	2	1	2	2	1	1	2
15	70	2	1	○	○	○				1	○			1	○	○				1	1	2	2	2	3	2	2
16	60	3	1	○		○				1	○		○	1	○	○	○			2	2	2	2	2	2	2	2
17	50	3	1	○						1	○			1				○		1	3	2	3	2	2	2	2
18	70	3	1	○						1	○			1		○				2	2	2	3	3	3	3	3
19	80	3	1	○		○				1	○	○		1	○					1	1	1	2	2	2	2	1
20	80	3	1	○						1	○			1	○					1	1	1	2	1			2
21	50	2	1	○	○	○				1	○	○		1	○	○				2	2	2	2	2	2	3	3

自由記述欄

○問2 付問1の「その他」選択肢の回答内容

- ・歴史を知り、守意識高める。

○問3「本日の育成者のガイドを聞いてどのように感じましたか」の回答内容

- ・若い人だからこそその切り口があるとより素晴らしいと思う。
- ・学業にも活かしてやってほしい。
- ・初めての経験にしてはまあまあできていた。経験を積めばよくなっていくと思う。
- ・ガイド頑張って下さい。
 - ・初めてなのに良くがんばってガイドしてくれた。
 - ・しんせんみがあって良かったです。
 - ・たどたどしい感じでしたが、頑張っているのが良かったです。
- ・努力を感じ好感を持ってました。若い世代を巻き込むことはとても大事だと思います。
- ・しっかり調べてました。話すタイミングが合えばOK!
- ・堀川のいろいろな事を事前に調べてガイドしていただきありがとうございました。これからも、継続的に続けてくれるといいなと感じています。
- ・一生懸命さが伝わりました。

- ・最初のガイドとしてはまず合格.
 - ・真面目に、懸命に行なっているのがよくわかった.
 - ・とても丁寧なガイドでした.
- 問4付問1の「その他」選択肢の回答内容
- ・堀川に関心のある人が増える

○クロス分析の結果(1)

1. 分析の目的

問7と問5(1)でクロス集計を行い、堀川の各所に関する知識を求める程度に、今までに堀川を訪れた経験が影響しているのかを分析することを目的とする。

2. 用いた設問と選択肢(再掲)

問7) 今日までに堀川を知っていましたか.

1. 初めて堀川に来た
2. 過去に堀川に来たことがある
3. 過去に堀川で船に乗ったことがある

問5) 本日のガイドを聞いてガイドに何を求めますか.

設問

1. 堀川の各所に関する知識

選択肢

1. 強く求める
2. やや求める
3. あまり求めない

3. クロス集計の結果

クロス集計の結果を表1と表2に示す.

	堀川の各所に関する知識			総計
	強く求める	やや求める	あまり求めない	
1. 初めて堀川に来た	7	1	0	8
2. 過去に堀川に来たことがある	3	2	0	5
3. 過去に堀川で船に乗ったことがある	4	4	0	8
総計	14	7	0	21

表1__データの個数

	堀川の各所に関する知識			総計
	強く求める	やや求める	あまり求めない	
1. 初めて堀川に来た	88%	13%	0%	100%
2. 過去に堀川に来たことがある	60%	40%	0%	100%
3. 過去に堀川で船に乗ったことがある	50%	50%	0%	100%
総計	67%	33%	0%	100%

表2__データの行集計における比率

4. 考察

表2から、堀川を訪れる経験が少ないほど、堀川の各所に関する知識をガイドに強く求め、反対に、堀川を訪れる経験が多いほど優先度がやや低くなっている傾向にあることが読み取れる。また、今回のアンケートで、堀川の各所に関する知識をガイドにあまり求めている回答者はいなかったことから、乗船者が重視する要素であることに違いはないと考えられる。

以上を踏まえガイドでは、初めて堀川に来た人が多い場合には堀川の各所に関する説明に比重を重くし、堀川舟運のリピーターが多い場合には他の要素にも重きを置いた方が、乗客の満足度を向上させる可能性があると考ええる。

○クロス分析の結果(2)

1. クロス集計結果

クロス集計の結果を表1、図1に示す。ただし、行ラベルは世代、列ラベルは話術にたけていること(1. 強く求める, 2. やや求める, 3. あまり求めない)である。割合は、各世代のうち、1, 2, 3と回答した人がそれぞれどれほどいるかを表わす。

個数 / 列35	列ラベル	1	2	3	総計
30		0.00%	0.00%	100.00%	100.00%
40		33.33%	33.33%	33.33%	100.00%
50		0.00%	66.67%	33.33%	100.00%
60		40.00%	60.00%	0.00%	100.00%
70		28.57%	42.86%	28.57%	100.00%
80		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
総計		23.81%	52.38%	23.81%	100.00%

表1 クロス集計結果(表)

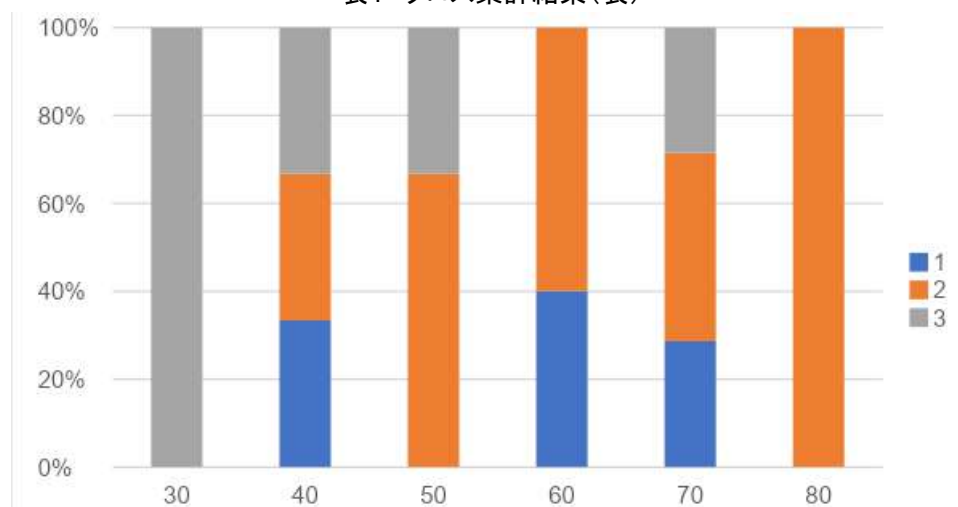


図1 クロス集計結果(棒グラフ)

2. 結果からわかること

総計で見ると、2. やや求めると回答した人の割合が最も高く、1. 強く求めると3. やや求めると回答した人の割合が同じである。ガイドに話術にたけていることを求めている人(1と2を回答した人)の割合が75%以上あり、全体としてガイドに話術にたけていることを求めていることがわかる。

次に、世代別で見る。30代は、3. あまり求めないと回答した人しかいない。40代は、1. 強く求める、2. やや求める、3. あまり求めないと回答した人の割合が同じである。50代は、2. やや求めると回答した人が最も多く、1. 強く求めると回答した人はいない。60代は、2. やや求めると回答した人が最も多く、3. あまり求めないと回答した人はいない。70代は、2. やや求めると回答した人が最も多く、1. 強く求めると3. あまり求めないと回答した人の割合は同じである。80代は、2. やや求めると回答した人しかいない。30代と80代で回答の選択肢が一つしかないのは、30代と80代の人1人または2人しかいなかったためだと考えられる。40代、50代、70代に関しては、ガイドに話術にたけていることを求めている人(1と2を回答した人)の割合が同じくらいであり、70%前後である。30代を除き、どの世代もガイドに話術にたけていることを求めている人が多いことがわかる。

○クロス分析の結果(3)

ガイドの育てる方がいいと思う理由で「地域のためになるから」を選んだ年代層を図1のグラフに示した。ここで1が「地域のためになるから」を選んだ人の割合、2が「地域のためになるから」を選んでいない人の割合を示したものである。

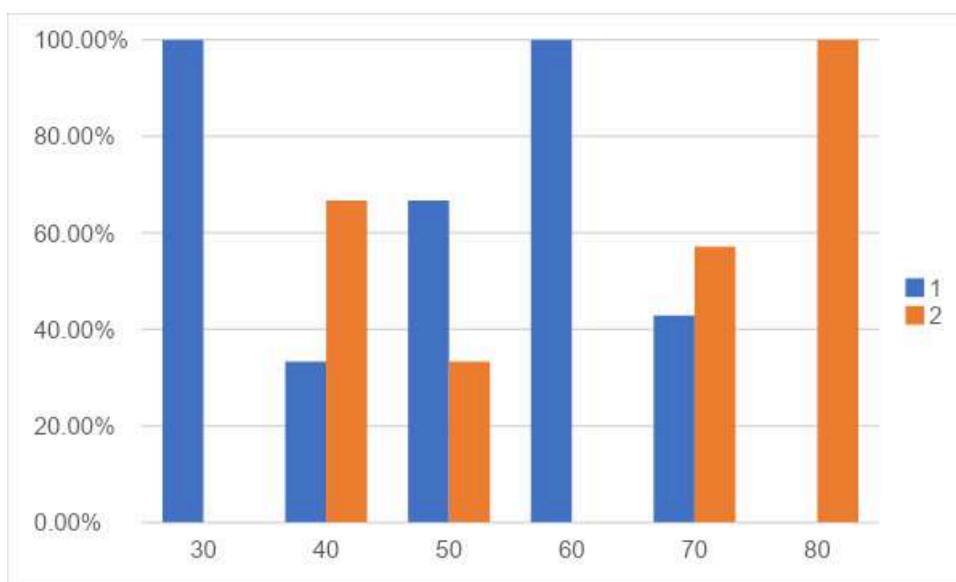


図1 年代層別「地域のためになるから」を選んだ割合

この結果から、30代・50代・60代は「地域のためになるから」ガイドを育てた方がいいと考えている人の割合が高いことに対し、40代・70代・80代は「地域のためになるから」ガイドを育てるべきだとは考えていない人の割合が高いことがわかる。また、全年齢層を足し合わせ

た1と2を選んだ割合の結果を図2に示す。この結果から全体を通して見ると、ガイドを育てた方がいい理由として若干「地域のためになるから」を選んだ人が多い結果となった。

個数 / 列5	列ラベル		
行ラベル	1	2	総計
30	100.00%	0.00%	100.00%
40	33.33%	66.67%	100.00%
50	66.67%	33.33%	100.00%
60	100.00%	0.00%	100.00%
70	42.86%	57.14%	100.00%
80	0.00%	100.00%	100.00%
総計	52.63%	47.37%	100.00%

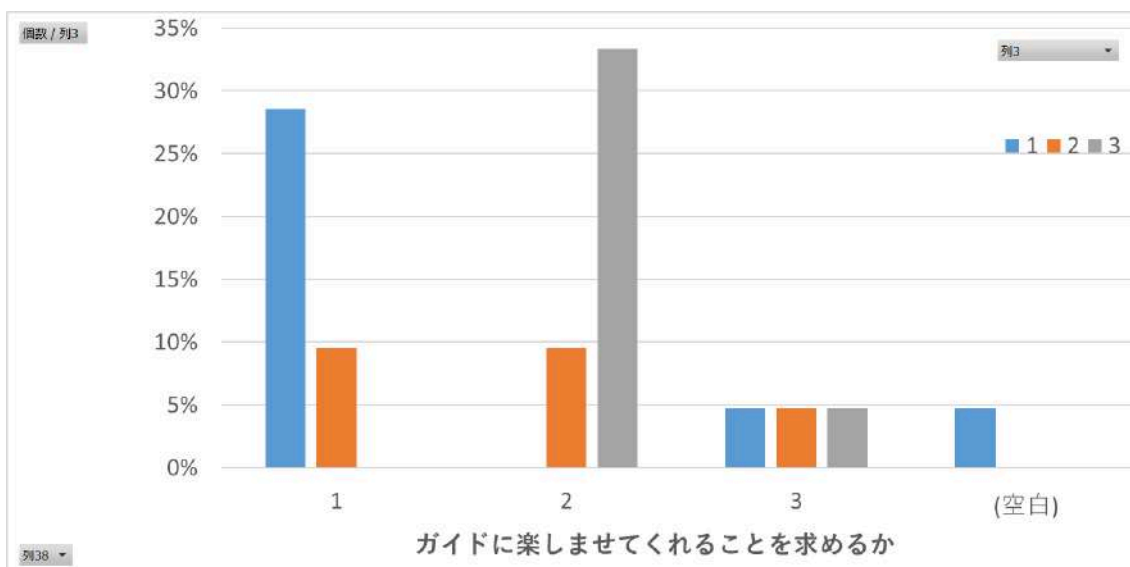
図2 全体を合計した「地域のためになるから」を選んだ割合

表—1 ピボットテーブル

個数 / 列3	列ラベル			
行ラベル	1	2	3	総計
1	29%	10%	0%	38%
2	0%	10%	33%	43%
3	5%	5%	5%	14%
(空白)	5%	0%	0%	5%
総計	38%	24%	38%	100%

表—2 ピボットテーブルの説明

行ラベル	ガイドに楽しませてくれることを求めるか
1	強く求める
2	やや求める
3	あまり求めない
列ラベル	堀川を知っていたか
1	初めて堀川に来た
2	過去に堀川に来たことがある
3	過去に堀川で船に乗ったことがある



図—1 表—1をもとに作成した棒グラフ

表一1より、行ラベル1の内訳をみると、列ラベル1の割合が最も多い。このことから、初めて堀川に来た人は、ガイドに楽しませてくれることを強く求める傾向があることがわかる。行ラベル2の内訳は、列ラベル3の割合が多い。このことから、過去に船に乗ったことのある人は、ガイドに他の示せてくれることをやや求める傾向がある。行ラベル3の内訳は、どの列ラベルも同じ割合である。全体の割合としては、過去に堀川に来たことのある人、初めて堀川に来た人が最も多かった。全体としてこの二つの割合がほとんどを占めていた。また、ガイドに対して、楽しませてくれることを“やや求める”人が最も多く、次いで“強く求める”人が多かった。

○クロス分析の結果(4)

私は堀川アンケートの間5(6)ガイドに対して乗客とのやり取りがうまいことを求めるか、と問6回答者の世代、についてのクロス集計を行った。

以下の表1はその集計結果をまとめたものである。ここで問5(6)ガイドに対して乗客とのやり取りがうまいことを求めるか、に対する回答を便宜上以下のように回答をまとめた。

- 1:ガイドに対して乗客とのやり取りがうまいことを強く求める
- 2:ガイドに対して乗客とのやり取りがうまいことをやや求める
- 3:ガイドに対して乗客とのやり取りがうまいことをあまり求めない

表1 世代ごとの投票数

世代/やり取り	1(票)	2(票)	3(票)	(空白)	総計(票)
30代	1				1
40代	2		1		3
50代	1	2			3
60代	3	2			5
70代	1	2	2	2	7
80代		1		1	2
総計	8	7	3	3	21

表1の結果を用いて以下の図1のグラフを作成した。

図1 世代ごとの投票数

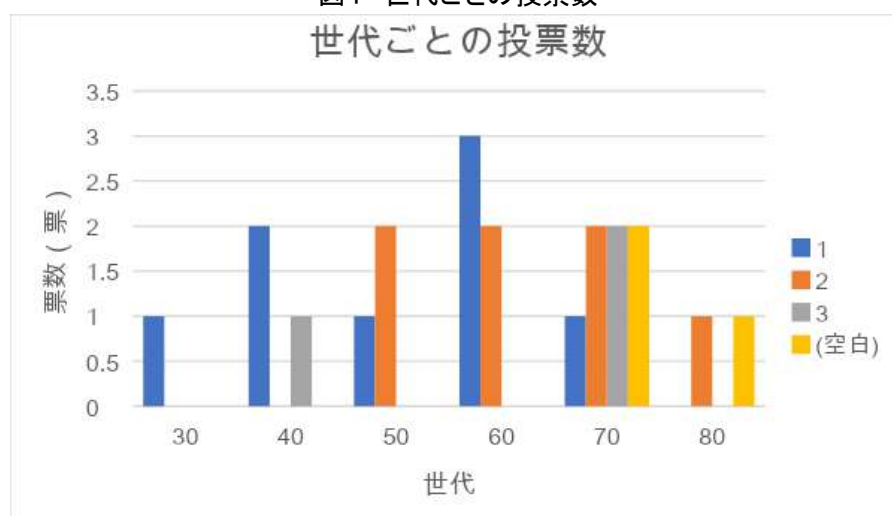


表1と図1の結果より若い世代のほうが1の回答率が高く高齢世代のほうが2や3の回答率が高くなっている。このことから世代が高くなるにつれてガイドに対して乗客とのやり取りの上手さを強く求めない傾向があると分かった。また、70代、80代では無回答のアンケートもあるため正確なデータであるとは言えない。より集計結果を正確なものに近づけるためには標本数を増やし解答漏れのないアンケートを使用すべきであると考え。また、今回の調査では世代ごとの標本数に偏りがあるためどの年代も一律な標本数とすることも必要であると考え。

ガイド体験者に訊く（回答票）（1）

※トータルでA4×0.5～1枚に収まる程度の分量で

(1) 過去に船、バス等でガイドをしたことがありますか。

(どちらかに○を) 1. ある . ない

(2) 12/3以降、12/10にガイドを担当するまでにどのような準備をしましたか。

堀川の概要や歴史、沿岸地域の観光施設などについてインターネットで調べてまとめた。それと予行のときに作成したメモを照らし合わせながらどのタイミングで何を話せばよいのかを考えた。直前には全体の流れをもう一度確認し、話す練習もした。

(3) 12/10にガイドを体験してどのような感想を持ちましたか

堀川についての知識が少なかったことやガイド自体初めての経験だったこともあり、最初は上手く話せるかどうか不安であり緊張した。しかし、話していくうちに徐々に慣れていき、話をするタイミングなどのコツをつかんでいった。また、なるべくメモを見ずに乗客の方を見て話すように意識することができたと思う。多くの人前で自分が身に着けた知識を説明するという良い経験になった。機会があればまた堀川のガイドを体験してみたいと思う。その際には、堀川についての知識をさらに身に着け、誰に対してもわかりやすい説明ができるように準備したい。

(4) 人口が減少する中で地域のガイドを本業ではない人が担うことは可能と思いますか。
そのように考えた理由も述べてください。

(どちらかに○を)

1. 可能である

[理由；今回のガイド体験で、本業でない人でも一通りの知識を身に付け、話す練習をすればガイドができるということを自分自身が実感したため、ただし、間違えることなくわかりやすく説明するためには、本番と同じ状況で何回か予行をする必要があると考える。]

2. 不可能である

[理由；

]

ガイド体験者に訊く (回答票) (2)

※トータルでA4×0.5～1枚に収まる程度の分量で

(1) 過去に船、バス等でガイドをしたことがありますか。

(どちらかに○を) 1. ある 2. ない



(2) 12/3以降、12/10にガイドを担当するまでにどのような準備をしましたか。

- ・ 予行練習時に得た知識の復習
- ・ 堀川に関する知識の学習

(3) 12/10にガイドを体験してどのような感想を持ちましたか。

覚えた知識をアウトプットするだけでなく、抑揚やテンポ、言葉選びなど聞き手にわかりやすく、聞きやすく伝える技術も必要で難しかった。

(4) 人口が減少する中で地域のガイドを本業ではない人が担うことは可能と思いますか。
そのように考えた理由も述べてください。

(どちらかに○を)

1. 可能である

[理由；3に記述したような伝える技術や、堀川に関する知識など、ガイドツアーとしての質を安定して確保できるかどうかで言えば少し難しいと思う。だが、実際ガイドをしてみて、乗客の方や堀川に詳しい方のサポートをしてもらいながらではあるがツアーをやり切ることはできた。加えて、ツアー参加者のアンケート結果からも流暢なガイドを強く求める人は少なかった印象があるので、地域の人と学生、若年層との交流の場を作ったり、堀川を知ってもらったりして、堀川を盛り上げていくことはできると思う。]

2. 不可能である

[理由；

]

ガイド体験者に訊く（回答票）（3）

（1）過去に船、バス等でガイドをしたことがありますか。
（どちらかに○を） 1. ある ②. ない

（2）12/3以降、12/10にガイドを担当するまでにどのような準備をしましたか。
名古屋市ホームページの堀川に関する記述を読み、そこから話す内容を紙にまとめました。当日は、その紙を持参して、話す助けとしました。

（3）12/10にガイドを体験してどのような感想を持ちましたか。
自分が話そうと思っている内容と、乗客の方々がその地点ごとで興味を持つことに相違を若干感じました。具体的には、堀川に来ている鳥など、見てすぐ分かるものに興味を持つようでした。
またガイドを行う中で、時間や位置を把握する事が難しく、乗船を繰り返して訓練することの必要性を感じました。また、乗客の前でガイドとして話す機会はあまりないので緊張しました。

（4）人口が減少する中で地域のガイドを本業ではない人が担うことは可能と思いますか。
そのように考えた理由も述べてください。
（どちらかに○を）

①. 可能である

[理由；働き方が多様化していく中で、本業が休みの時に副業として行うことは可能だと考えます。ガイドへの報酬も、地域に還元されるもの(地域の繁華街などで使えるクーポン・地域通貨など)にできれば良いのではないかと思います。]

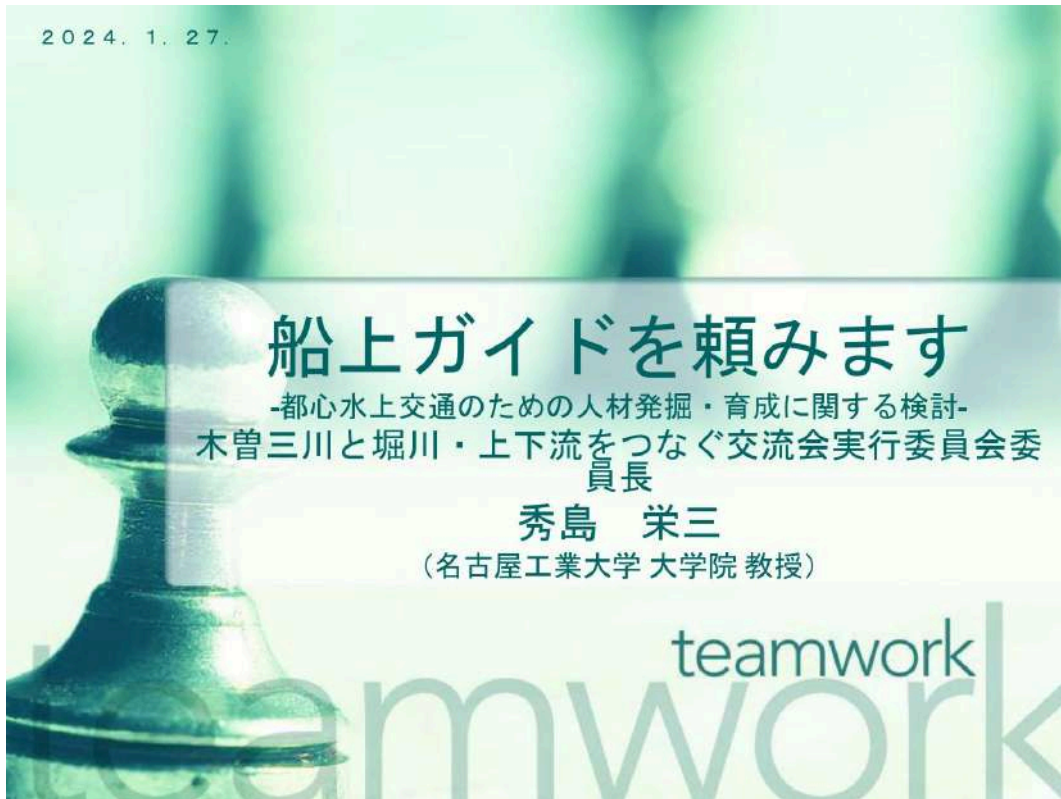
2. 不可能である

[理由；

]

地域共創シンポジウムにおける成果報告

発表資料



やっぱり水辺がいい



やっぱり水上交通がいい



船上ガイドを頼みます：実践とふり返し

ガイド体験者へのアンケート



どのような準備をしましたか

堀川の概要や歴史、沿岸の観光施設などについてインターネットで調べてまとめた。予行のメモに照らし合わせながらどのタイミングで何を話せばよいか考えた。直前に全体の流れを確認し、話す練習もした。

体験してどのような感想を持ちましたか

堀川についての知識が少なかったことや初めての経験だったこともあり不安で緊張した。話していくうちに慣れ、コツをつかんだ。乗客を見て話すように意識することができた。

本業ではない人が担うことは可能だと思いますか
体験してみて可能と思った。

船上ガイドを頼みます：実践とふり返し

乗船客へのアンケート(集計結果)



- ・堀川の各所に関する知識 強く求める
 - ・河川に関する知識 やや求める
 - ・話術にたけている やや求める
 - ・乗客とのやりとりがうまい 強く求める ほか
- クロス分析

	堀川の各所に関する知識			総計
	強く求める	やや求める	あまり求めない	
1. 初めて堀川に来た	88%	13%	0%	100%
2. 過去に堀川に来たことがある	60%	40%	0%	100%
3. 過去に堀川で船に乗ったことがある	50%	50%	0%	100%
平均	67%	33%	0%	100%

初めて来た人が多いときは堀川各所の説明を増やし、リピーターが多いときは河川や都市などの説明を増やして満足度を向上させる

船上ガイドを頼めます

乗船客へのアンケート(自由記述欄)

- ・初めてなのによく頑張ってガイドしてくれた
- ・初めての経験にしてはまあまあできていた。経験を積めばよくなっていくと思う
- ・堀川のいろいろなことを事前に調べてガイドしていただきありがとうございました。これからも継続的に続けてくれるといいなと感じています。
- ・一生懸命さが伝わりました。
- ・学業にも生かしてやっていって欲しい
- ・若い人だからこそその切り口があるとより素晴らしいと思います
- ・若い世代を巻き込むことは大事だと思います
- ・しっかり調べていました。話すタイミングが合えばOK



訓練・マニュアル
実践の機会
DX活用
...

水上交通を楽しめる名古屋へ

人材育成のためのカリキュラム作成

都心水上交通のための人材育成マニュアル

1. マニュアル作成の趣旨

衰退傾向にあった水上交通が、都市の魅力のもととしての水辺への関心の高まり、脱炭素化の推進、スローライフの広まりとともに見直されつつある。地域公共交通としての堀川水上交通の可能性を探るため、2023年12月10日(日)に学生が堀川にて船上ガイドを試みる形で人材発掘・育成の可能性を探る取り組みを名古屋工業大学都市基盤計画分野研究室などが協力して「木曾三川と堀川・上下流をつなぐ交流実行委員会」が行った。その結果をもとに都心水上交通のための人材育成マニュアルをまとめることとした。なお、これはガイド実行のためのマニュアルではない。

2. 社会実験による所見

2023年12月～2024年1月に行った一連の取り組みを踏まえ、人材育成マニュアル策定に向けて検討すべき項目を以下にまとめる。(ここを読み飛ばして3. 人材育成マニュアルに進んでよい)

- ・現場、交通の諸条件を考慮するべきである。
- ・担当者の諸条件を考慮するべきである。
- ・乗船客の諸条件を考慮するべきである。
- ・リハーサルは不可欠である。
- ・知識を習得しておくことが望ましい。そのための教材があるとよい。
- ・移動を伴い、応答を求められることからアドリブ、タイミングの適切さも大事である。
- ・本番をもってOJT(On the Job Training)とならざるをえない面もある。
- ・個性、若さなどの特質を損なわないよう過度のマニュアル化は避けるべきである。
- ・乗客、担当者に事後アンケートを行い、担当者及び現場の今後に役立てるべきである。
- ・ICT等によって効果の向上、負担の軽減を図るとよい。
- ・経費も考慮にいれるべきであろう。
- ・専任を求めることは難しい。兼任であることを想定するべきである。

3. 都心水上交通のための人材育成マニュアル

都心水上交通を運営する立場、あるいは都心水上交通を利用するイベント等の主催者の立場を想定する。(以下ではひとまとめに主催者と記す) 主催者は、専任ではないガイド(以下では担当者として記す)を育成する、増やすために何をどうすればよいかを整理した。

#交通面

- ・乗船区間を把握する。具体的には乗降場所、見どころ(説明すべきポイント)、所要時間を押さえる。
- ・船内環境を把握する。具体的にはマイク・スピーカー、ガイドの立ち位置、屋根や防風設備の有無、天候による運航への影響を押さえる。
- ・乗船前、下船後にまち歩きを含み、そこでガイドを行う場合もある。

#状況面

- ・乗船客が当地に詳しいか否か、河川、水質、歴史等の知識が豊富か否かを予めまたは乗船客に訊くなどして把握する。これによって提供すべき情報が異なる。
- ・乗船客にとって乗船が主目的かイベントの一環にすぎないかを予め把握する。これによって乗船客が関心を持つ対象、担当者が提供するとよい情報が異なる。

#人材面

- ・担当者が乗船区間、河川、船舶などに関する知識が豊富か否かを把握する。これによって事前説明の内容、提供すべき教材が異なる。
- ・担当者ごとに話術の得手不得手はある。不得手でも担当可能であり主催者はそのことを説得する。
- ・できれば乗船客とのやりとりも練習しておくといよい。主催者は想定質問集をつくることが考えられる。
- ・兼任であるということは都合がつく日時を定めなければならない。できるかぎり早期に本番とリハーサルの日程調整を行う。
- ・リハーサルのために船をチャーターする。このための経費が大きい。これが難しいようであれば定期路線に乗船することで代替する。
- ・継続的にガイドを体験してもらい、レベルの向上を図れるといよい。

#機材面

- ・説明の補助のために文字・画像を伴って説明するパネルがあるとよい。損傷しないよう、また扱いよくするためにラミネートするとよい。
- ・マイク・スピーカーについてはヘッドセット型のものがあると両手が空くのでよい。
- ・パネルに代えてタブレットを活用することが考えられる。予めタブレットに画像、音声を入れることで担当者の負担が軽減されるであろう。乗船客数分のタブレットがあるとさらによい。